

研究実践の成果と課題

◆1 生徒F（3年）の「振り返りシート」の記述の一例より

話合いでは、なかなか話すことができなかった。友達の意見を聞くことはできた。（4月 社会）



4月は関わり合う力が弱かったが、授業で学び合いを重視したことで、**学習の喜びにもつながっている様子が見取れる。**

地域の問題について、**様々な角度から意見を出すことができた。**友達と意見を合わせ、解決策が見つかった。（10月 社会）

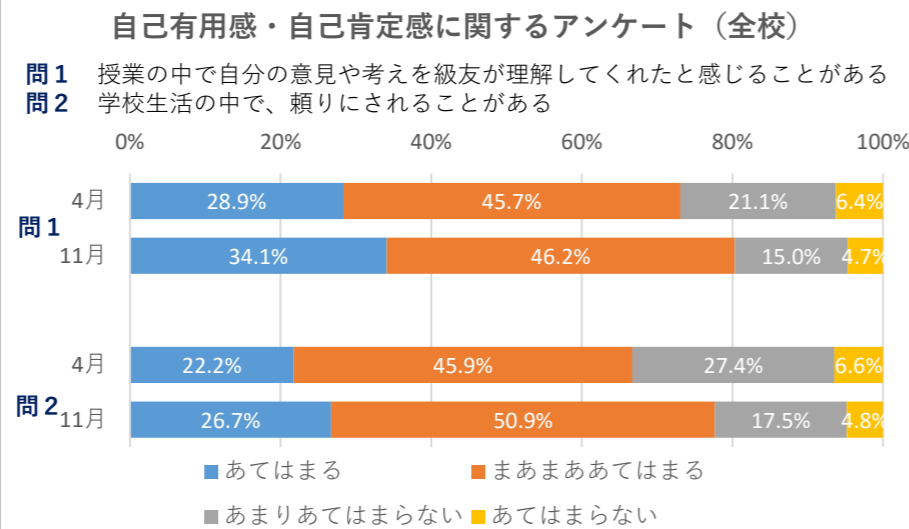
2・3ページの生徒A・Bと同様に、**「支援の方向性」に沿った、適切な支援の継続による成果**と考える。

◆2 取組の成果

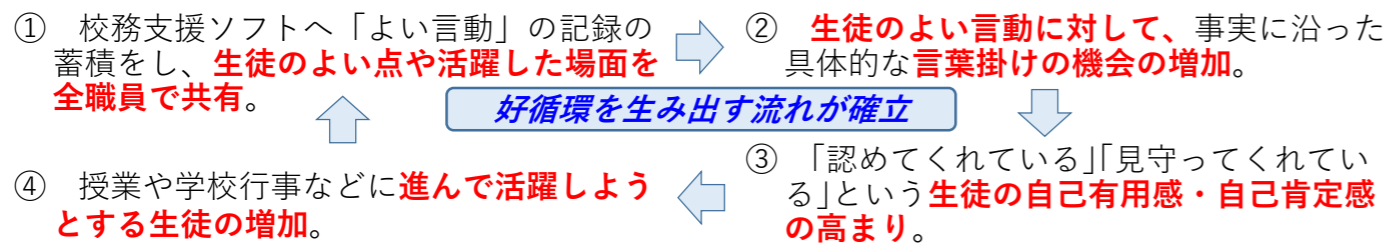
・右アンケートの「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の割合に注目して研究に取り組んだ。グラフのように、**肯定的な値が増加する結果**となった。

・「学び合い」の学習を全教科で取り入れ、ネームプレートを活用したことで**意見を交わす機会が増えた。**さらに、自分の考えを理解してもらうために、級友の考えとの比較や例えを示すなど、**工夫された発表が増えた。**

・「振り返り」の発表で、自分が発言した内容等が紹介されたり、その姿を教師が更に認めたりしたことが、自信につながり、**自己有用感・自己肯定感の高まりにつながった。**



◆3 「校務支援システム」の効果



**「学び合い」「振り返り」の活動等により、人間関係が良好になり、自己有用感・自己肯定感の高まりが見られる結果に！**

今後の実践の充実に向けて…

・「学び合い」は「認め合い」「励まし合い」「高め合い」につながるものであり、個の意識が集団の質を高めた。さらに個が生き、磨かれることが改めて確認できた。今後は、**ネームプレートの活用やグループ編成の仕方等、更に「学び合い」の場の工夫をし、生徒の学力向上**

**と成長につなげたい。**  
・保護者・地域等、学校に関わる大人が学校の実践を理解し、校内生活と同様に、**地域全体で、自己有用感・自己肯定感を高める言葉掛けができるような行動連携をする必要がある。**また、本テーマに即した小中連携の実践を図っていくことが必要である。

児童生徒理解を基盤とし、  
学習指導と生徒指導を一体化した授業づくり

中学校実践編



学校で、生徒の生活の中心となるのが授業です。授業には、「学習指導」と「生徒指導」の二つのねらいがあります。

本テーマは、児童生徒理解を基盤とし、「学習指導」と「生徒指導」を一体化した授業を通して、生徒が自己有用感を味わい、自己肯定感を高めることを目指して設定したものです。

本リーフには、「生徒指導リーフ No.7-1（理論編）」に基づいた研究推進校の取組例を、「No.7-3（実践編）」としてまとめました。

本リーフを参考に、本テーマを具現化した効果的な取組を実践してほしいと思います。

取組の重点

「校務支援システム」や「振り返りシート」を活用した学び合いの授業

◆1 生徒の実態

- 自分で物事を決定していこうとする意志をもつ生徒が多い。
- 自分の意見をしっかりもち、相手の意見も聞き入れる姿勢をもつ生徒が多い。
- △ 自分の意見や考えをもっていても、積極的に伝えようとする生徒が少ない。
- △ 他者から認められる経験をもつ生徒が多くない。

◆2 目指す生徒の姿

自他を大切にし、互いに信頼し助け合う生徒

◆3 主な取組

- ・「校務支援システム」の活用 …… 教職員が、ふだんの生活や授業で見つかり感じたりした、生徒の「よい言動」を記録する。システムで共有する生徒の情報をもとに、意図的に努力を認める言葉掛けや支援の方向性に沿った言葉掛けをし、自己有用感を味わわせ、教職員と信頼関係を築く。
- ・「生徒指導の三つの機能」を意識した学習指導



【「学び合いの作法」を意識して聴く生徒】

自己存在感を与える	「ネームプレート」の活用	学級のネームプレートを係生徒が特別教室にも持参し、全授業で活用する。話合いの場で個の考えを教職員・生徒ともに把握できるようにする。
自己決定の場を与える		
共感的な人間関係を育成する	「学び合い」の学習活動	「学び合いの作法」（※次ページ参照）を掲げ、肯定的な反応をしながら、主体的に活動する。

- ・ **グループ学習のもち方の工夫** …… 生徒理解を踏まえ、個を伸ばすための座席配置やグループ編成の工夫をするなど、意図的な「仕掛け」を行う。
- ・ **「振り返りシート」の活用** …… 授業の最後に生徒が記録する「自分の成長」や「級友のよさ」、参考になった「友達の言動」、級友の影響で変わった「自分の考え」などを「校務支援システム」に入力したり、「朝・帰りの会」で発表したり、教職員の言葉掛けに生かしたりする。

# 児童生徒理解を基盤とし、学習指導と生徒指導を一体化した授業づくり

## 自己有用感を味わわせ、自己肯定感を高める実践例① 担任・教科担任の意図的な支援の実例

支援の方向性を明確にし、成長につながる計画的・意図的な支援を実施

### 1年4組 No.15 生徒A [生徒理解を踏まえた担任の願いと支援の方向性]

#### 【担任の願いと支援の方向性】

- ・ 学習への苦手意識があり、自信をもてていないようである。授業で必ず1回は発言することを目標にさせることで、しっかり話を聴いたり、考えをまとめたりすることを意識させたい。
- ・ 「学び合い」の学習で、周りから認められる経験をさせ、自己有用感と自信をもたせたい。

#### 【保護者の願い】

- ・ 集団のために活動する役を…
- ・ 【小学校からの申し送り】  
・ おとなしいが、運動は好き…

小中連携による、継続的な成長を促す指導につなげる。

#### 1 学期

生徒Aの周りに、話し合いが得意な生徒を含めた班編成をし、活発な学び合いを経験させる。

#### 2 学期

話し合いが得意ではない生徒を含めて班編成をし、生徒Aがグループ活動でリードできる環境をつくる。

#### 理科

積極的に挙手をし、発言する姿が見られた。グループ内で主として、周りの友達に考えを伝える姿が見られた。

#### 学級では

グループの中心となって「学び合い」をリードする経験を積み重ねた。後期学級役員「書記」に立候補し、精力的に学級をリードするようになった。

#### 2 学期末には…

【生徒A】アンケートに「誰かの役に立っている」と記述があり、自己有用感の高まりを表す変容が見られた。

### 3年2組 No.12 生徒B

#### ポイント!①

#### 【担任の願いと支援の方向性】

- ・ 校務支援システムに、「発表はできなかったが、よい意見をもっている」とあった。自分の意見を出せるよう、前時の学習を整理させ、「学び合い」で自信をもたせたい。
- ・ 「学び合い」の学習を充実させ、友達との話し合いの楽しさや喜びに気づかせたい。積極的に自分の意見を伝え、自己有用感を味わわせたい。

#### 【保護者の願い】

- ・ なかなか自分の意見を…
- ・ 【校務支援システムより】  
・ 発表はできなかったが、ワークシートにより意見が書かれていた。

「学び合い」を効果的に活用するために具体的な支援の方向性を示す。

#### 1 学期

司会が得意な生徒と同じグループに編成し、話し方や話し合いの取り回しを学ばせる配置に。

#### 2 学期

生徒Bが中心となれるグループ編成をし、話し合いを進められる状況にする。

#### 社会

公民の授業で、グループの意見をまとめ、全体の場で発表することができた。

#### 学級では

「学び合い」をきっかけに、友達と関わる機会が増え、授業以外でも、自分の考えを伝えるようになった。

#### 2 学期末には…

【生徒B】司会や代表生徒としての発表等、自己有用感を味わい、自分に自信がもてるようになり、積極性が見られるようになった。

意図的なグループ配置で、個を伸ばす。

#### ポイント!④

一連の「仕掛け」の継続が、向上的な変容につながり、自己有用感・自己肯定感の高まりにつながる。

## 自己有用感を味わわせ、自己肯定感を高める実践例② 「ネームプレート」の活用

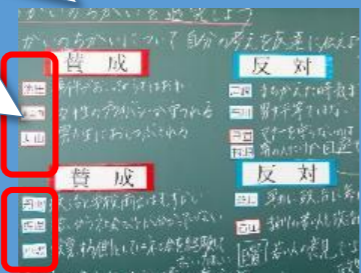
自己存在感を与え、自己決定する場を設定

生徒が立場をはっきりさせる場面で、ネームプレートを貼ることで自己決定の場をつくる。全員参加の授業となる。考えの相違点が明確になる。

#### ポイント!⑤

生徒の立場をはっきりさせる場合に、ネームプレートと考えを確かめて発言できるので、続く発言に「〇〇さんの意見に似ていて…」と、級友の意見を認め、つながりがある意見交流となる。〇〇さんは、自己存在感を味わうことができる。

#### ポイント!⑥



## 自己有用感を味わわせ、自己肯定感を高める実践例③ 「学び合い」の学習活動

主体的に活動し、共感的な人間関係をつくる授業

話を「聴く」(相手の様子を感じ取る)こと、仲間に「訊(き)く」(自分の疑問を明確にする)ことを心がけ、反論はしない。

### 学び合いの作法

- 一、分からないときは自分から仲間に訊く
  - 二、分かった人から「教えてあげる」と言わない
  - 三、自分の言葉で話す
  - 四、根拠をもって話す
- ※訊く…自分の疑問を明確にする  
聴く…相手の様子を感じ取る

周囲が「うなずく」などの肯定的な反応をすることで、安心して発言ができ、共感的な人間関係を築くことができる。この積み重ねにより、話者の自己有用感・自己肯定感を高めることができる。

#### ポイント!⑦

## 自己有用感を味わわせ、自己肯定感を高める実践例④ 「振り返りシート」の活用

授業の最後に互いのよさや気づき等を「シート」に記述

グループの話し合いでは司会をし、意見をまとめることができた。学んだ内容について具体的に発表することができた。(3年 生徒C)

シートに記載された場面の事実をたえ、生徒の自己有用感を味わわせるひとことを添える。

#### ポイント!⑧

【朱書き】司会の役割がしっかりできました。班員の意見を丁寧にまとめていましたね。発表では、みんな納得していましたね。

教師がシートを分析し、言動が仲間の学習に役立っていることが把握できれば、当該生徒にその旨を朱書きしたり、言葉掛けをしたりすることで、自己有用感を味わわせる。

#### ポイント!⑨

## 生徒理解を深める手立て 「校務支援システム」の活用

校務支援システム内に「よい言動」の記録を蓄積

全教職員が全生徒の記録を閲覧できるシステム。生徒の日常生活の「よい言動」の情報を共有し、支援に生かす。

担任→生徒D  
英語の授業で、上手に発表できたと聞いたよ。発表の力がついてきたね!

2年3組 No.6 生徒D  
英語の授業で、突然の教師からの指名にもかかわらず、グループでまとめた内容を、自信をもって発表することができた。  
(編集: 2018/9/21 14:14 □□ □)

1年4組 No.25 生徒E  
理科の実験で、冷やしたときの結晶のでき方を班の仲間に伝えることができ、班員の「振り返りカード」には、その活躍が記述されていた。  
(編集: 2018/10/11 15:25 □□ □)

担任→生徒E  
理科の実験で活躍したそうね。班員も感心していました。これからも活躍してね!

担任が見ることができない、様々な学校生活の「よい言動」を把握でき、言葉掛けや朱書きで成長を促すことができる。

#### ポイント!⑩